**第３学年２組　国語科学習指導案**

1. **単元名・教材名**ローマ字
2. **児童の実態と本単元の意図**

本学級の児童は、これまでの学習でローマ字に触れた授業がなく本単元が児童にとって初めてのローマ字の学習である。学級の雰囲気として積極的な発言が多くどの教科においても自由な発言が目立つ一方、関心が大きくそれてしまうこともある。ローマ字については既習事項のつながりがないので注意したい。

本教材は単元の最初のページにローマ字の表があり、ローマ字を体系的にみることができるようになっている。その表を活用することによってローマ字のきまりを理解しやすくなっている。また、ローマ字を知ることで日常生活にローマ字が大きく関わっていることが発見できるようになっている。

本単元を指導するにあたって、小学校学習指導要領の第３学年及び第４学年の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ウ　文字に関する事項（ァ）第３学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。」を中心に指導を行っていく。そのために「ローマ字を読んだり、書いたりすること」を単元を貫く言語活動に設定する。その言語活動を行うためにワークシートを利用して、よりローマ字に触れる機会を作ることによってローマ字の基本を理解する。

本時では、長音などの特殊な文字のローマ字による表記の仕方を学ぶことによって、ローマ字による表現の充実を図るとともにローマ字の基本を押さえていく。

本教材を通じて、ローマ字の基礎を築くことで今後のパソコンでのローマ字入力の準備をするとともに、アルファベットになれることで外国語教育へ親しむきっかけになると考えている。

1. **単元の目標**

日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、

ローマ字で書くことができる。

1. **単元の評価基準と学習活動に即した評価基準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ア　国語への  関心・意欲・態度 | オ　言語についての  　　知識・理解・技能 |
| 単元の  評価基準 | ・ローマ字の学習に興味をもち、読んだり書いたりしようとしている。 | ・ローマ字表記の基本を理解し、簡単な単語を、読んだり書いたりしている。 |
| 学習活動に即した評価基準 | 1. ローマ字を身の回りから探したり、ローマ字の読み書きの練習をしようとしている。 2. 拗音・長音・促音の時のローマ字表記のきまりを理解しようとしている。 3. 身の回りのものをローマ字で意欲的に書こうとしている。 | 1. 拗音・長音・促音をローマ字で書くことができる。 2. ローマ字の決まりを理解し、ローマ字を正しく読むことができ、正しくローマ字で書くことができる。 |

1. **指導と評価の計画**（全５時間扱い）本時２／５

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主な学習活動 | 学習内容 | 評価基準・評価基準 |
| １ | ○ローマ字を見つけること。 | ○教科書のローマ字表を読　　　　　む  ○ワークシートでの練習 | アの①  ・ワークシートによる考察 |
| ・３  ・４ | ○ローマ字表からローマ字の規則を発見。  ○拗音・長音・促音の表記の仕方。 | ○ワークシートによるローマ字および簡単な単語の練習。  ○例を紹介し、規則を見出す。 | アの②　オの①  ・ワークシートによる考察 |
| ５ | ○ローマ字での表現。 | ○身の回りにあるものをローマ字で書いてみる。 | アの③　オの②  ・ワークシートによる考察 |

1. **本時の学習指導**
2. 目標

拗音・長音のつく文字をローマ字で表すことができる

1. 評価基準（１時間の授業に即した具体的なもの）

|  |  |
| --- | --- |
| ア　関心・意欲・態度 | オ　知識・理解・技能 |
| ②拗音・長音・促音の時のローマ字表記のきまりを理解しようとしている。 | * 1. 拗音・長音・促音をローマ字で書くことができる。 |

1. 展開

|  |  |
| --- | --- |
| 前時の学習活動 | ○ローマ字を知ろう |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学　習　活　動 | 学　習　内　容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
| １　前時の復習をす　　　　　る。  ２　本時の課題を把握する  「ゃ、ゅ、ょ」のつく文字や伸ばす音はどうやって書くのかな  ３　ワークシートを用いて練習する  ４　本時のまとめをする。 | ・　ローマ字の書き方  本時の学習課題  ・これまでのきまりと今回の拗音のきまり。  アの②　拗音・長音のローマ字表記のきまりを意欲的に知ろうとしている  オの①　拗音・長音をローマ字で書くことができる。  《手立て》  ・できている児童には他の単語を考えさせる。  ・できていない児童には教科書の表を参考にすることを助言する。 | ○前時に用いたワークシートで書く練習の時間を確保して、基本の定着をはかる。  ○ローマ字にはどのようなきまりがあったのかを発表するようにする。  ○これまでのきまりでは表せないことを説明。  ○拗音の文字はこれまでのようにアルファベット２つではなく、３つで表記する。  ○机間指導にて書き順や音に注意するようにする。  ○ローマ字表と教科書の例を確認する。 | 10  10  20  ５ |

1. **備考**在籍児童数　35人
2. **板書計画**

「ゃ、ゅ、ょ」のつく文字と伸ばす音をもつ文字はどうやって書くのかな

Tyawan ちゃわん　densya でんしゃ　きんぎょ　kingyo

Otosan　おとうさん　onesan　おねえさん　おにいさん　onisan